

周易鈔

大壯

困

需

比

九

大壯

雷天大壯

大壯



○繇曰大壯利貞タイ サラハ リマリ テイニ

大壯ハをくひ小さくんありとむむじ

け卦曰陽長じて進スミ サカン整なりよよりちあるまのくさかんありと

と物モノ少くとスベキ西小利あるなりハちよ整トク小してたぐあを

とけざれば強キツクモリ極のよきふてほよとあるてハ君子たるの

道不ありはけは持とん肉んと厚らげ邪ヨコ養ヨシをまかす

小信ありてふれあり

大壯大者壯也剛以動故壯

このふはけは

陽長じてタイ ありの壯なりトハ乾少くまこサシ厚らよ上

ハ震少て新スゴヤサ あり乾の使スゴヤサ少く故子退居かく動スゴヤサ王人

上スゴヤサなるの象也玄より天地の情と見る時スゴヤサ也常スゴヤサ人より

たゞ爻とちよスゴヤサあるも一屈む爻なりけし物とくたよたゞ

爻時ハ實の理少くくスゴヤサたゞ血氣の勇強を用スゴヤサひざる故

少情とくスゴヤサたゞなり

○象曰雷在天上大壯君子以壯禮弗履スゴヤサ といふハ物か

さかんるるよスゴヤサまかせて強スゴヤサま志スゴヤサに志スゴヤサ事スゴヤサ防スゴヤサ節スゴヤサ文スゴヤサのスゴヤサとスゴヤサ不スゴヤサ及スゴヤサか

き理よスゴヤサ叶スゴヤサ履スゴヤサしスゴヤサ初スゴヤサ時スゴヤサハ登スゴヤサるスゴヤサのスゴヤサ象スゴヤサよスゴヤサ不スゴヤサ遠スゴヤサしてスゴヤサ若スゴヤサ也スゴヤサ

○初九壯于趾征スゴヤサ凶有孚スゴヤサ け何スゴヤサとスゴヤサりスゴヤサ知スゴヤサハ剛陽の健スゴヤサるスゴヤサ

体少くスゴヤサしよあり少スゴヤサなりスゴヤサまスゴヤサむスゴヤサよスゴヤサさスゴヤサかんスゴヤサ小スゴヤサしてスゴヤサをスゴヤサ伸スゴヤサやスゴヤサたスゴヤサぐ

るぞ剛陽スゴヤサなれ壯スゴヤサなりスゴヤサ時スゴヤサよスゴヤサあらスゴヤサバスゴヤサよスゴヤサあスゴヤサるスゴヤサまスゴヤサ進スゴヤサこスゴヤサぐスゴヤサらスゴヤサむ

況スゴヤサしスゴヤサもスゴヤサあスゴヤサるスゴヤサてスゴヤサハスゴヤサ趾スゴヤサ情スゴヤサ字スゴヤサあるスゴヤサ履スゴヤサきのスゴヤサ象スゴヤサ也スゴヤサけし物とくスゴヤサたスゴヤサよスゴヤサ情

でスゴヤサたスゴヤサなり

○象曰壯于趾其孚窮也スゴヤサ といふハ趾スゴヤサよスゴヤサ壯スゴヤサあるスゴヤサハスゴヤサ進スゴヤサんスゴヤサだスゴヤサ

あるの象也玄スゴヤサ得スゴヤサよスゴヤサしスゴヤサよスゴヤサあスゴヤサるスゴヤサてスゴヤサ壯スゴヤサるスゴヤサ事スゴヤサ成スゴヤサ用スゴヤサいスゴヤサ進スゴヤサハスゴヤサ困スゴヤサ窮

してあスゴヤサきスゴヤサとスゴヤサ信スゴヤサとスゴヤサするスゴヤサれスゴヤサたスゴヤサなりスゴヤサまスゴヤサくスゴヤサ情スゴヤサとスゴヤサ壯スゴヤサよスゴヤサるスゴヤサ爻スゴヤサとスゴヤサ云

くスゴヤサとスゴヤサたスゴヤサなり

○九二貞吉スゴヤサ といふハ貞スゴヤサ吉スゴヤサといふは陽剛スゴヤサなりスゴヤサ陰柔の位スゴヤサよスゴヤサありスゴヤサよ

より、ちよ、壯なるの時よ、あはれ、こころ、剛柔の、ま、ま、た、た、る、れ
山、存、也、け、し、持、少、く、そ、身、陽、剛、の、徳、あ、る、其、陰、柔、の、ま、の、ま、
美、修、く、其、凶、と、失、さ、る、の、情、ま、て、ま、は、り、

○象曰、九二貞吉、以中也、といふ、八、貞、吉、よ、し、て、吉、あり、八、其、

中道、ま、た、り、少、ま、れ、ま、得、中、小、か、あ、(ハ、後、進、と、成、た、か、り、ぞ、

凶、と、失、ら、む、は、し、持、成、情、で、中、ま、り、て、倚、さ、る、の、徳、よ、け、て、貞、

○九三、小人用壯、君子用隱、貞厲、羝羊觸藩、羸其

角、け、あ、る、ま、は、剛、陽、よ、て、乾、体、の、終、る、た、り、ま、き、ま、り、め、て、

壯、なる、ま、小人、ハ、か、成、た、ら、む、び、壯、小、勇、ま、り、か、ま、ぞ、君子、ハ、

志、剛、よ、し、て、事、ま、よ、從、み、勇、ま、て、義、の、け、ま、バ、乱、さ、る、

て、あ、ま、り、ぞ、け、し、持、少、く、羊、の、藩、小、つ、き、あ、る、ま、て、ま、角、ま、

ら、む、む、ら、む、剛、の、ま、る、ハ、強、の、徳、ま、あ、る、ま、り、ま、り、

し、強、ま、ら、む、ま、て、人、と、あ、り、こ、の、情、あ、る、ま、て、ま、ま、り、

○象曰、小人用壯、君子罔也、と、云、は、小、人、少、く、強、勇、の、り、

ま、た、の、む、ら、は、は、事、の、度、ふ、ま、き、ま、事、あ、る、ぞ、君子、少、く、ま、志、

剛、よ、し、て、事、ま、あ、る、ま、り、省、ま、ら、れ、ハ、し、ま、ま、あ、る、ま、り、

は、し、持、成、情、で、ま、は、り、

○九四、貞吉、悔亡、藩決、小羸、壯于大輿、之輟、け、あ

たり亦は剛は少してはよく整ふれば坤は柔なるのみ正しくば
るぞ玄程より君子の道長ざる時少失ありても重んずる道
小害ありて漸何るぞ我しども陽剛を以て陰を以てあり
は多に極ざる処ありけしは柔剛はまじりて陰を
らぎあはば藩決壯于大輿之輟とくも進まはは
と何るそあり

○象曰藩決不羸尚往也と云は剛陽の長ざるを
なれ共往と極まざるハ是ふありふせぐ物かけしは持
しく進むべきの勢ひは陸て八國とくも進む情を
表す

○六五喪羊于易无悔けあはる羊の群行は
ふきてはよくぬるを好むとふあるもの柔の道は
まらぬ小剛を以て柔の制されがわらぬ
して悔の憂あま共和易の道は柔なるを
けし持めく物か接觸とふまあることなき極は情を
表す

○象曰喪羊于易位不當也と云ハ物の壯なるを以て
ハ剛を以て柔を以て柔の位は柔の形を以て柔
てあはるを以て共君の位にして和易の道は強弱の
事よかさばはるを以て柔の位は柔の形を以て柔

○上六 羝羊觸藩不能退不能進无攸利 艱則吉

羝羊はけあさり処陰柔中て柔の終、壯あるの極、小を其
るること、羝羊の藩、小をたぐはし進退困、とめくむけん枵と
いひきす、こごしくは、其ハあつうの、あつうは強てこごまんを
せば、遂ぎして害あむむ、よく艱身ある、情多てよむけん枵

○象曰 不能退不能進 不詳也 艱則吉 咎不长也

云は、頂上の処極、進退自に、ななり、ば、ちよ、まり、も、其、成
詳、は、情、艱、身、次、守、ら、ば、九、三、の、意、む、る、ら、の、轉、と、成、其、あ、つ、う、
よくけん枵と情と、情と、よくけん枵

○元 龜曰 羝羊觸藩之課、とつう、よく、羊の角の藩、よは

きあつう、よく、けん、後、自、由、な、ら、ぶ、る、其、あ、つ、う、む、其、先、曲、後、情
の象と云て、初ハ、自、由、な、ら、ぶ、る、其、あ、つ、う、む、其、後、小、は、其、路、は、あ
る、よく、とつう、あ、つ、う、也

○ト 解曰 大壯陽也、と云て、大壯陽、さかん、よ、長、ざ、れ、共、其、の、剛、法

と物、人、と、あ、つ、う、の、心、あ、つ、う、て、ハ、あ、つ、う、き、ぞ、よく、情、と、よく、けん、枵、
ハ、よく、とつう、あ、つ、う、也

○ト 象曰 雷天大壯 觸藩羊頭 角羝舒予足也

云ハ、陽氣、さかん、なり、羊の藩、よ、角、と、よく、けん、枵、と、よく、けん、枵、と、よく、けん、枵、

のむぐ、化を凌いさるひあらむまよ、誠、とく、少くして、静子
守る情少く、吾也。

○十干詩断曰、堂上持権酌、輕重、とく、人、様柄あて、変
とさぎく、変あり、一已、ま、ま、せ、ど、人、の、あ、り、く、を、も、よ、に、と、バ
い、ま、用、ひ、前、後、と、も、く、思、案、し、て、我、が、功、も、も、成、就、ま、る、に、お
あ、く、も、に、あ、り、

○評曰、大壯者、志也、羸羊の、道、は、よ、あ、り、く、が、と、く、物、は、実、ある、と
あ、る、と、ハ、も、多、全、あり、じ、し、我、が、剛、ま、ま、か、せ、く、ハ、お、雇、ま、ち、あ、り、
利、あ、り、く、む、多、と、あ、ひ、情、く、も、に、あ、り、

○ 澤 天 夫

○ 繇曰、夫揚王庭、孚號有厲、告自邑、不利即
戎、利、有、攸、往、 夫、た、さ、く、む、と、も、む、ぞ、決、断、の、義、也、小、人、と、
なる、時、ハ、君、子、の、道、傷、さ、れ、ど、人、義、く、君、子、の、道、を、あ、る、に、
類、あ、り、て、ゆ、も、吾、も、知、あ、め、ん、と、ま、る、が、ゆ、ぞ、君、子、の、義、を、
と、心、少、人、の、義、を、決、断、ま、と、い、其、侮、て、備、あ、け、ま、バ、サ、ト、き、
は、心、持、ま、て、威、勢、と、た、の、剛、武、と、事、と、せ、ど、し、て、厚、ら、ら、ざ、
の、情、ま、て、存、あ、り、

○ 彖曰、夬、決、也、剛、決、柔、也、健、而、說、決、而、和、 此、卦、上、は、

兪コソコ子シて下は乾子ニて健なりス。五陽ニと一陰トと決ト。物ヲに在るニ如ク。
不レレ歩ハ。歩ハくニて私なるニたト。ルあリきニあリものトも。興コソ武ブの盛備ヲ
て刑罰トと暴れシぎル。物ノ情ヲあリバあきスものトあリづクなレ。
陽ノよクあリむト云ハ後カり。

○象曰。澤ノ上ニ於テ天ニ。夫ノ君ノ子ヲ以テ施ル。祿ヲ及シ下ニ。居ル德ヲ則シ息ス。
と云ハハ卦ノ上ニは兌。下ニは乾。子ヲ以テ施ル澤ノのうるを以テ乾ノ天子ノのをり。
の象物ヲと潤後カり。君ノ子ヲ以テ家ヲとんて祿と施。トリををよ。
不レ歩ハ。歩ハくニて身と約。トリををよ。息トとをせぎ。いまるむの情
て者あり。

○初九。壯ニ于ニ前ニ。趾ヲ往シ不レ勝ス。爲レ咎ト。はぬるを知ル。陽ニて上ニ
ふあるぎものあリまし。トリををよ。前ニに壯なるもので人ノ行ハ
と実にある時ハはし。往シと勝からざるハ決断のとく往テ後カ
ざりまし。時ヲとく計ハ。其ノ情ヲとく進スむの情ヲとく進ムハ後義カ
。

○象曰。不勝ト而レ往ス。咎ト也。と云ハ人ノのまるむと其と後義ハ
てふせバ決断ををり。過ハり。理ヲ後カり。とくざりまし。進ムハ後義カ
るぞけハ物ヲとレ後カり。後カりの理ヲとんぎテ進ムとレ困ムををり。
らんとレ後カり。物ヲとレ後カり。

○九二。惕ニ號ス。莫ク夜ニ有ル戒ト。勿レ恤ス。いぬるを知ル。剛ニ陽ノの才
。

あつて、決断するの、時よあまのども陰謀の位に居る所よ剛とか
く、中とゆくとせむあるより、兵戎の事ふ言ふあるても
悔ふありて悔せぐと城は、はた折して、剛より折るべく、内は
暢とゆふ、か多て嚴多りて、ふ言ふとあるても、悔と
急度守りあるは、法く、こ少く、はあり、

○象曰、有戎勿恤、得中道也。と云は、夜中ふども、兵
あるとハ、思ふなきと、なまき、恤とせむとハ、兼て身持と、
正して、其備ふ、は、好む、思ふと、はらざるも、はた折して、須臾
も、戒備と忘るる、厚く、情あつて、はあり、

○九三、壯于頄、有凶。君子夬之、獨行遇雨、若濡、有愠
无咎。は、あつて、是れ、下作のよう、あつて、決断する、
さう、変あまき、其剛、其剛、は、
あつて、さう、出の道あるぞ、君子は、夬と、と云て、少人のあつて、
と、決、去、の時よ、さう、も、少人は、
の君子よ、愠らうと、あつて、は、
たう、衆陽の君子よ、たうと、
たう、衆陽の君子よ、たうと、

○象曰、君子夬之、終无咎也。と云ハ、私の好む事とハ、決
たう、たう、たう、たう、

決まらざるやと決まるより、智を記せしむるに於て、陰陽のあり
きものよ、私好せざるして、決断を正すもの情をて、記すなり

○九四 臀无膚其行次且 牽羊悔之聞言不信
臀ハイツラニナシ 膚ハダヘ 其行次且シヨス 牽羊悔之聞言不信ヒイテヒツシヲクイモロフキクトヒコトヲズ

はめりしに、尻に皮を剥ぎ去るがごとく、進シヨスとまれ共、陽を陰に變じ

たよ、さくみごときぞ、我一人をてハ進シヨスとまらざるに於て、衆人よ

あつたかひ、苦子進シヨスに於て悔ありし、記すや、是り、爰ヒに

○象曰其行次且位不當也聞言不信聰不明也
象曰其行次且位不當也聞言不信聰不明也

とらふは、剛陽なれど、陰の位にあるハ、變ツルとのあつるざる也

我らのまゝよ、なまざるして、記すまげと、記す情を、情でを

○九五 莧陸夫之中行无咎
九五 莧陸夫之中行无咎

よん、高、位、よ、河、よ、は、卦、の、陰、ハ、衆、陽、の、志、よ、まん、と、ま、り、の、か、

九五、進、よ、飛、よ、志、よ、あ、よ、し、む、き、よ、陽、剛、の、力、よ、て、決、断、し、て、行、

処、申、道、よ、し、つ、て、答、を、記、あり、は、し、つ、て、正、申、道、よ、從、て、私、

決、断、し、去、の、情、よ、を、あ、り

○象曰中行无咎中未光也
象曰中行无咎中未光也

て、内、よ、み、つ、ま、ハ、光、輝、亦、よ、あ、り、ら、る、と、し、私、志、の、処、あ、ま、り、

光、輝、あ、り、し、れ、ど、九五、ハ、陰、よ、進、た、よ、親、厚、き、よ、の、知、る、よ、見、

ゆ、た、よ、中、未、光、と、云、ん、は、記、す、よ、決、断、あ、り、し、道、義、あ、り、て

答かーはし物候情ぐり記あり

○上六元ハナシ號サセテ終有凶クハシ 是南処也一陰モロクきて一陽のよまあり
陽長じて陰法きんとするの時衆の君子まきむぐ小人を来
し去し時子あて小人とて言ふあるは危して濫の溢アハレ
て雷フワキを保タモヒぐ記ぞく小人の志を改めて君子と調ツまるの
情をよむ記あり

○象曰元號之凶終不可長也 と言は衆の君子を
まきむで一陰の小人窮盡の時ぞく小人の志を改めて君子
よ決ハしてさうろくをな記厚うよ情ぐり記あり

○元龜曰神劍斬蛟之課 と言は物のたぐぬる邪
なるを制セイするハたり厚き記ぞく氣キをてハあしく和ワふからざる
とも後よは言をあるを言ふんと云ふあり

○火贖曰乾兌相刑乾金兌金をて同類比ヒ和ワするまよ記ぞ
情をあしめてあらそひあまてハあしく

○ト彖曰其勢雖便宜漸ミツカラ自抑シヨフ 我子威辨あるまよ
之て君子乃中とゆる厚うよ情でし小人のよまありてハよ
からざるよあしくむ

○ト象曰夬決クワイハケツク公庭コウテイ不用モトヒ牝メノ と言は内の陰陽を急速

よなきを道よあつらひてハ傷あつむと故慎でよなり

水天需

○繇曰需有孚光亨貞吉利涉大川需

まらふむとむとむと水木ありてトハ乾の剛健なる故小

のりりきまむとむと水木の陰ありて進む

需と云ぞ玄利水と水相合せとむと字ありて大川

渉と云陰難渉なりとものん物と物と相合短急なり

きやうみ性よくなるなり

○彖曰需須也險在前也剛健而不陷其義不困

需一矢、そのみは陰部のけしきとまづ小なる故速

小吉とむつうく、待合くゆる時止、主陰小陷、主らく其義也
困窮くく、くろくむとたきこぞ、世の物あく、乾剛のまらむ
まこと、林のむとあひらきなほよ、主徳のああら、天位の子
信、山をきて、正、甘、尚、厚、小、ち、せ、バ、大、川、地、流、く、陰、難、あ、る
くも、流、得、く、功、あ、る、ま、と、あ、る、ぞ、物、成、急、速、み、た、ま、ど、ゆ、ら
ゆる、お、わ、ま、あ、の、情、小、て、表、は、り、

○象曰、雲上飛、天需、君子以飲食宴樂、といふは、雲
の天、小、上、く、いま、い、あ、る、ま、と、あ、る、ハ、書、の、成、なる、故、小、君子、は、
象、ん、く、主、徳、成、懐、て、飲、食、く、氣、を、養、く、以、て、宴、樂、を、
志、を、成、ら、り、げ、時、を、待、く、主、陰、小、く、徳、を、懐、て、
待、小、易、小、居、く、命、を、待、の、情、を、か、く、表、は、り、

○初九、需于郊、利用恒、无咎、此、あ、る、り、水、の、陰、
小、あ、く、待、て、後、小、ま、む、ま、く、あ、ら、り、陰、小、遠、
く、ま、て、主、陰、小、く、主、書、の、ま、と、あ、む、で、主、守、り、
あ、ま、バ、書、か、き、ぞ、書、を、く、厚、ま、ん、せ、ど、躍、動、して、ま、か、く、難、

と、犯、ま、ま、と、情、を、陰、小、近、づ、く、ま、あ、り、
○象曰、需于郊、不犯難行也、利用恒、无咎、未失常、
也、といふは、曠、遠、の、地、を、何、ら、が、く、陰、難、を、犯、ま、ま、遠、さ、り、

○象曰、需于郊、不犯難行也、利用恒、无咎、未失常、
也、といふは、曠、遠、の、地、を、何、ら、が、く、陰、難、を、犯、ま、ま、遠、さ、り、

○象曰、需于郊、不犯難行也、利用恒、无咎、未失常、
也、といふは、曠、遠、の、地、を、何、ら、が、く、陰、難、を、犯、ま、ま、遠、さ、り、

てしにぞ、以心持るる陽はまきむのふれ共、陰難のありき
正しゆかむ進。ましく安んじく飛ん、そ常の道越し
なきざい、く登るき、ぞけい心持と情、くふ心なり

○九二 需于沙 小有言 終吉 イサコニ スコキ アレヒ コト ツイニハ キツナリ けあするを知ら、水近なり

沙ありぞ、陰難小近、くどらまき去、沙は、つる小なり、言小し
らざい、少言の夫ありむ、然共、大なる害を以て、去澤よけ
し持と情、何屋も、変小近づくとも、卒忽小なき、まきして
言と情、し得あらば、純小、吉なりむと云、義なり

○象曰 需于沙 衍在中也 雖小有言 以吉終也 ツトハ ニ ヌタカニ アレヒ キウニ イハトモ スコキ アリト コト モツチ キツヲ ヲフ と云ハ

險と近しといへ、寛裕といへ、わらぬ心持と情、中道は、ま
守るるに、まきこゝま、そのいひとありき、終小は、おとなん
多しよまき、むとなき、し持あるまて、小なり

○九三 需于泥 致寇至 ヒナリコニ イヌス アマク イタルコト 世あり、り、而ハ剛より、て、終

健体の上あり、ふるま、進動、まよ、ふるま、るま、てハ、寇と致
害、のら、ぞ、ま、得小、捕の、能、ぶ、ま、た、紅、極、よ、沖、の、ろ、く、情、ま、か、し、て
泥は、つら、く、陰、あ、小、陷、ま、ら、き、小、し、心、持、あり、く、吉、也

○象曰 需于泥 在 外也 自我致寇 敬慎 不敗也 ツトハ ニ マカレ アレヒ ホカニ ヨリ ワレ イヌス アタラ ケイ シンスレガズ ヤアレ と

まは、ろ、方、險、小、近、は、ま、く、迫、小、なり、勇、あり、ま、ある、ま、と、云、ぞ、人、の、あ、り

と彼イヌスもあつても我もるを多しよまんとまらよらるぞ宜時
汝ニ行く進ムよめくバ喪敗ツツバの危イぶれるきのあかりけんおは
そ進ムよ時の宜とまから情シくもあかり

○六ニ四ニ需ニ于ニ血ニ出ニ自ニ心ニけあする至ニ知ニ陰ニ柔ニ小ニして
陰ニ難ニ傷ニ小ニ血ニ需ニと云ぞ玄ニ初ニよそとニ流ニてニ成ニ
安ニむニざるニところニあニくニ心ニよりニあニるニがニときニぞニ此ニ心ニちニ心ニ順ニ
路ニからニ時ニあニるニがニ陰ニ難ニのニ節ニとニもニくニもニ競ニとニちニくニ時ニ
あニせニくニまニむニとニ時ニ之ニあニるニのニ情ニあニてニ也ニ

○象曰需于血順以聽也 と言は陰柔小して危ニらニるニ

あニらニざニれニ共ニくニうニ危ニまニひニ情ニさニかニせニバニ我ニとニあニのニくニとニくニ
者ニからニとニとニ得ニくニ大ニあニるニ失ニるニ危ニぞニけんニおニとニ知ニ音ニのニあニ
るニどニあニはニまニるニとニあニらニやニくニ小ニ情ニくニ者ニからニりニ

○元龜曰雲需謂中天之課 といふは心ニおニとニしニつニぎニ
晴ニ屋ニうニよニなニきニとニあニらニんニ不ニ断ニ定ニ心ニなるニ情ニぞニ書ニをニてニ
あニらニざるニとニくニ物ニのニ成ニ就ニあニらニむニとニまニれニ共ニくニとニのニひニぞニときニ
あニらニむニ雲ニゆニきニあニらニりニとニのニひニあニるニ危ニまニひニ情ニくニまニるニりニ

○ト解曰需者待也將涉水而不輕進之象 と言はニ前ニよりニ方ニ水ニとニ乾ニのニ健ニあニくニ涉ニとニまニれニをニ危ニ小ニよりニ情ニくニ

しく進ぶと成るさばも進退するもよく難しきこと有り去
悔のたゞしきさかして守りよく事よ待合あるもの持
よてたきなり

生

○火歌曰水天需有難頼得世相生 と言ハ卦水

天需少く陰難の心持あまき世意お生じくは嶮と
少を止りあるまて進まを云く遠きよ持とハ心よむらさる
の情少てあなり

○卜彖曰前有險阻未可安行 と言ハ前より坎あ
險阻ありてまきこかぬらぐよく情あらば逢平るる

のハ競とあまきとよく柔順ふあさぐひて時成つ順
徒して聽とあらハ出と分からんけん物さ心情よくはるる

○九五需于酒食貞吉 けあま雨は陽剛少く中より
たゞしきを得くも位なりまなり毛道成つくしてはれぞ

必新して酒食宴樂するよく安むよく待とよ修くよ
き世心持少くりする同徳のものを待く輔とるま極よ
情あまき需と云く遊るまあるまてあなり

○象曰需于酒食貞吉以中正也 と言ハ酒食よ
たゞしきお安として毛道成るまあるまてはれぞけん物成

心酒食の喜あるごとく、と事よまうにほじき座うよ情
をそよひかり

○上六入于穴有不速之客三人来敬之終吉 けあし
知を頂うよて需の極少く穴よ入てくそ知と安むじ

止ありまより不速ものともまうに剛陽の心つひの
来とあるそ忘疾とあく是とまう敬とあまじ神を後
犯とあまそいひおと情であかり

○象曰不速之客来敬之終吉雖不當位未大失
也、と云は陰柔の身少く剛陽のよまあうふより位母

時あらむ人の害とあさん座うあとも謙の敬情あらば
安寧ふしてあからんと云あかり

○十干詩断曰有道須逢泰先防一女災、と云ハ道
のたごき夏ありと泰よあまありとも女子のみくふに
座うよぬせぎしてふれぞんぞ思ひなきとあるそ財用
と座ふり換まるよの心からざる夏ハ云くあまて也

品水地比

○録曰比吉原筮元永貞无咎不寧方來後夫 出 比 比

ありむとむむ人ありむむありむむ人たるの道まを

きぎ統共そのありむあるも道なきことよすの後悔

原筮まをむむもありむむ道なき道なきを能くまかりて永

有りても答ふにむむあどるきとはむむ比成おそ

きぞ比の持るを我身成たるにて進来るること有り後

根子あまてはよからむむの情ををさなり

○彖曰比吉也比輔也下順從也原筮元永貞无咎以剛中也

とりよハの文の剛陽のの正位ニ行りて群カ乃衆人是
とたまけありしむとは比の道の義ツク層ツクをみたり
咎あふりてふれぞ人の我しよあニきりて何ニこぶる時
君ニくること誠ゆき君ニりともニ獨立トてはニ登スんニきり
義カ能ク臣トとあニとトおニ保チありしむの情ヲをニさニり
○象曰地上有水比先王以建萬國親諸侯ト 云々は物ノのニ比ト
たニこニてニ居ルてニるニきりノハあノ地ヲ和シ合シ何ニてニまニて
君ニ先王建テ王ヲ親シ法ヲ侯ニとニくニよニありしむニ屋ニるニ比トの
王ニてニまニこニよニんニふニれニとニ何ニのニ義ニなり

○初六有孚比之无咎有孚盈缶終來有它吉ト 云々は
下の初六無クありしむの娘メなりおニありしむの道ハ孚ニとニか
とニありしむニ中心ニはニ誠ニけニきニづニんニ誠ニありしむニもニらニまニるニ人
ふニしむニけニちニまニありしむニの娘メなり何ニりて咎ヲあニきニぎニ出スら
質ニ素ニたりしむニのぞニ質ニ素ニるニるニ意ニは物ノのニありしむニ人ノかニざニりニふ
しむニんニ實ニるニはニ云ニてニしニ持ニとニんニ情ヲ何ニバニ他ノのニ義ニ何ニむ
とニしむニ何ニなり
○象曰比之初六有他吉也 云々はありしむの道ハ娘メなり何ニ
能ク孚ニ何ニまニ終ニりしむニ他ノのニ義ニ何ニるニぎニ何ニまニ娘メよりニ孚ニ何ニけ

此ハ終ニ在ルニト云クんけんけん持を情行ハ他の在り
むとり不義あり

○六二比之自内貞吉ヒスルコニエラシヨリスウチテイニメキツけあし王亦ハ上の君と云意ヲ
正しく意ぢり申すのたゞき道を行はるゝむぞ其

才を擇エラニて用りてとよまはりとしくた主身を行ふとめて

許ユルがとくにハ我正しく道行るに依りて去禮を誠中云乃

道と云君よりゆき進シむ何りてふれぞけん持を上

の未ミニ意ぢり極キむ情シでふれあり

○象曰比之自内不自失也ヒスルコニヨリストハウチヤルニミツラニミツと云は我けりあたるべき

道行ちてよの我やけん持後の何きと云く我失

ふきぞけん持して我をと治シすはよの我の道なり

情シでふれあり

○六三比之匪人ヒスルコニコレヲアラズヒトニ世何し王知たあしむ知皆中云の正シき

よあころやましそふれぞ君子のふき知た公ヲヤケのたを

すらぞ常人は私シの何れもなり能人キは進シづき益エキを

求ルと云ゆぢ去あ依能人キはあしむと善道ニよう

つる情シをふれあり

○象曰比之匪人亦備乎ヒスルコニズトハヒトニサラヤニタイタニミカラと云は人のねあしむ

象曰比之匪人亦備乎ヒスルコニズトハヒトニサラヤニタイタニミカラと云は人のねあしむ

とハあく存成ル 王城おむがためる々々選てあすき
のよきありしに ちからがばととまゆく 王城おむが
きぞ 君臣朋友の君皆 ちからありしに ありのんち
よそをちからり

○六四 外比之貞吉 け何し王亦ハとるる 親^{シム}ちよ貞
正の正しきと成ゆて ちれぞ 君臣親^{シム}く するよハ道の
直^キちちのよの義に 陰柔のちちれりの 剛^キのはよき
のよきありしに ちよハ ち正^キと何々の 道^カちち けハち
柔^キの道^カちち ちよ ち正^キと何々の 道^カちち けハち

のよきありしに ちよハ ち正^キと何々の 道^カちち けハち

○象曰 外比於賢 以從上也 こと云は 剛^キの正^キ賢者のととき

ものちよハ ち正^キと何々の 道^カちち けハち
ちよハ ち正^キと何々の 道^カちち けハち
ちよハ ち正^キと何々の 道^カちち けハち

○九五 顯比 王用三驅 失前禽 邑人不誡 吉 沙何し 王亦ハ

君の位^ニあて 比の善^キ成^ルを ちよハ ち正^キと何々の 道^カちち けハち
道^カちち けハち
ちよハ ち正^キと何々の 道^カちち けハち

吾^ニ一^ノ之^ハも^ハい^ハま^カら^ハさ^ハば^ハど^ハ此^ノ持^マて^ハ三^ノ疆^ノの^前倉^ニ
地^ノし^ルる^ハ子^ノ孫^ノ子^ノ我^ニ仁^ハ心^ヲ多^ク歎^スま^デも^ハ反^テて^ハ情^ヲ
阿^リて^ハ衆^ノ人^ノも^ハあ^リて^ハ三^ノ疆^ノも^ハ阿^リて^ハも^ハ記^スあり
象^曰顯^ル比^ノ之^ハ吉^ニ位^ニ正^ニ中^ニ也^ハ舍^テ逆^テ取^リ順^ニ失^フ前^ニ禽^ニ也^ハと^云は^ス
其^ノ位^ニ正^ニ中^ニ能^キ取^ルる^ハ子^ノ孫^ノ也^ハ道^ノと^ハ衆^ノ人^ノ子^ノ志^ヲ
た^シて^ハ能^キ取^ルる^ハ子^ノ孫^ノ也^ハ道^ノと^ハ衆^ノ人^ノ子^ノ志^ヲ
が^ハ子^ノ孫^ノ也^ハ道^ノと^ハ衆^ノ人^ノ子^ノ志^ヲ

○上^六比^ノ之^ハ无^ク首^ニ也^ハ上^六比^ノ之^ハ无^ク首^ニ也^ハ上^六比^ノ之^ハ无^ク首^ニ也^ハ
吉^ニ終^ス也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ

一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ
一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ
一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ

○象^曰比^ノ之^ハ无^ク首^ニ也^ハ无^ク首^ニ也^ハ无^ク首^ニ也^ハ
一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ
一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ

○元^龜曰^衆星^拱北^之課^也と^云は^ス衆^ノ星^ノの^北辰^子拱^ニて^ハ
一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ一^ノ之^ハ道^ノ也^ハ

いづれ、^シ路^ロを分ち、^シ待^チめてあるなり。

○ト解曰、^{ヒハ}比者親輔也、^{シメシミ}と云ふハ比の部の一陽才又女也、

女陰是也、^シ夫とハ比の部の一人也、^{ハクキ}仰^キて

喜むごとく、^{カク}あはれむ、^{カク}あはれむ、^{カク}あはれむ、^{カク}あはれむ、

○ト彖曰、^{シヤウカ}上下相親、^{シメシミ}和同歡笑、^{シヤウス}と云は上下親厚なり、

よろしきあり、^シむすぶ、^シむすぶ、^シむすぶ、^シむすぶ、

いづれ報^{ハクシ}をいづれと、^シいづれと云ふこと、

○ト象曰、^{スイチヒ}水地比、^{クワメ}和建國侯、^{クニノキミ}と云は水の地上より、

たゞし、^シ屋^ヤを、^シ河^カを、^シ能^キく、^シ能^キく、^シ能^キく、^シ能^キく、

いづれ、^シ物^{モノ}を、^シ君^{キミ}王の輔^{サマ}とあり、^シ忠^{チウ}職^{シヨク}を、^シいづれと、

と云ふこと、

○火贖曰、^{ナイゲ}内外通流水、^{ツク}以親土、^{シメシミ}と云は内外とも、

て、^シ水^{スイ}の、^シ土^{ツチ}の、^シあはれむ、^シあはれむ、^シあはれむ、^シあはれむ、

制^{セイ}して、^{シヨ}諸^{シヨ}侯^{カウ}と親^{シン}厚^{コウ}なり、^シあはれむ、^シあはれむ、^シあはれむ、^シあはれむ、

いづれ、^シあはれむ、^シあはれむ、^シあはれむ、^シあはれむ、^シあはれむ、

バ衆人よりこびあそぶあり、道より遠く、譽を求むが故に、
天の程よきとて、人の心も憂むる所なり、情あるまてを也

○象曰、麗澤、兌君子以朋友講習、
とらふは天下り、
ふつこぶ、
道の時とあり、
朋友の誨り也、
講習して習され、
友誼の

初九、和兌吉、
はあ、
是は陽まで、
説の体也、
トよあれた、
意をこあ、
私にもあ、
知あ、
して、
説の

○象曰、和兌之吉、行未疑也、
と云ハ、
人の来、
とあて、
利
ま、
ハ、
邪、
なる、
偏、
私、
なり、
なり、
慎、
ある、
まて、
を、
あり、

九二、孚兌吉、悔亡、
は、
南、
知、
ハ、
陰、
柔、
の、
小、
人、
よ、
う、
あ、
り、
た、
み、
あ、
ら、
バ、
情、
あ、
る、
づ、
き、
を、
あ、
し、
ご、
も、
我、
剛、
中、
の、
徳、
字、
信、
の、
ま、
こ、
と、
肉、
は、
充、
ま、
り、
し、
少、
く、
あ、
り、
ま、
て、
も、
よく、
我、
道、
を、
守、
て、
失、
は、
ら、
ず、
は、
情、
あ、
き、
ぞ、
け、
ん、
持、
と、
情、
あ、
る、
バ、
剛、
と、
柔、
の、
位、
よ、
あ、
ら、
ず、
の、
君、
と、
徳、
と、
同、
あ、
り、
て、
お、
も、
ろ、
こ、
ぶ、
憂、
あ、
ら、
ん、
と、
云、
あ、
ら、
ず、

○九二、孚兌吉、悔亡、
は、
南、
知、
ハ、
陰、
柔、
の、
小、
人、
よ、
う、
あ、
り、
た、
み、
あ、
ら、
バ、
情、
あ、
る、
づ、
き、
を、
あ、
し、
ご、
も、
我、
剛、
中、
の、
徳、
字、
信、
の、
ま、
こ、
と、
肉、
は、
充、
ま、
り、
し、
少、
く、
あ、
り、
ま、
て、
も、
よく、
我、
道、
を、
守、
て、
失、
は、
ら、
ず、
は、
情、
あ、
き、
ぞ、
け、
ん、
持、
と、
情、
あ、
る、
バ、
剛、
と、
柔、
の、
位、
よ、
あ、
ら、
ず、
の、
君、
と、
徳、
と、
同、
あ、
り、
て、
お、
も、
ろ、
こ、
ぶ、
憂、
あ、
ら、
ん、
と、
云、
あ、
ら、
ず、

○象曰孚兌之吉信志也。と云ふは孚信の志は孚存
まるふより小人と云ふるに比ぶるにまじりて爻はまじりて情は
人の類向と云ふれむと云ふ也。

○六三来兑。此。はあつる上雨ハ陰柔にして中正かざるもの
小して祝小道をせむとある陽は去りて三より比來

ところの身なりよき意ざる爻なりしてより比道致
夫なりよき情ありてよにかり。

○象曰來兌之 凶 位不當也。と云ハ陰也陽の位は
ハ中なりてして位あつらざるを去りよきと云ふるものあはして

去りよきと云ふ比來とあるハ意致ふりたるをよき情と云ふなり。

○九四商兌未寧介疾有喜。はあつる比はよの中は小

うけく下の象の身なりよきと云ふにむむ程よく節を守りて其
西よきと云ひ邪惡のあはれと云ふるをさげてたがなまをよ
がみの情をよにかり。

○象曰九四之喜有慶也。と云ハ七より比あると云ふ

一にちてよる身なりよきと云ふに我剛陽の道致と云ふ
爻はよく福慶のさひといふあると云ふに比はよに相喜の情ありてよにかり。

○九五 孚于剥 有厲 けぬ、知ハ、信子して、説の言を、

くして、ふたかり、くので、これ、君よ、子ある、時と、つご、り、い、
る、そは、後、ぬ、れ、む、ま、小人、假子、若、と、あ、つ、こ、して、実、あ、き、を、知、
ぞ、して、そ、る、人、是、と、孚、と、ま、る、ハ、よ、から、ざる、の、象、也、よく、情、で、
陰、柔、邪、媚、の、もの、子、あ、こ、ま、ざる、の、情、を、て、存、也、

○象曰 孚于剥 位正当也 と言ハ、陽、を、陰、信、子、居、ル、ハ、位

正、當、け、る、也、は、信、子、あ、る、を、し、陰、媚、の、もの、子、あ、こ、む、変、あり、
て、ハ、よ、から、ざる、の、象、也、よく、情、ま、ど、ふ、変、あ、る、を、ま、り、然、情、を、て、
意、也、

○上六 引兌 けぬ、り、知、は、よく、こ、ぶ、の、極、な、れ、ど、も、厚、ま、ざる、と、ハ、

下、の、二、陰、を、引、て、其、説、長、ざる、の、象、也、凡、よ、あ、ら、ぶ、よ、の、厚、ま、ざる、
ふ、は、善、忍、あ、れ、ど、も、是、ハ、中、の、人、よ、も、る、初、子、邪、の、説、も、あ、る、む、
して、こ、た、かり、樂、ハ、極、厚、く、ま、の、心、持、と、情、ど、く、ま、り、かり、

○象曰 上六 引兌 未光也 と言ハ、陰、柔、打、る、身、の、ハ、世、と、

変、ぞ、かり、ぐ、こ、ま、る、より、陽、剛、の、たま、け、は、便、を、引、兌、と、言、ぞ、
言、よ、憑、慎、あ、る、を、ま、り、かり、

○元 龜 曰 江湖 養物 之 課 と言ハ、世、無、厚、で、て、なく、公、よ、人、を、

あ、ん、持、少、く、ま、り、だ、是、と、天、降、毎、一、と、言、て、天、乃、よ、か、を、目、
ら、ん、と、言、也、

○ト解曰、兇者説也、毎ふり、美物と云るなり、説志むき、
も私ふしてとよあるてハ下と愛一衆人ノ厚さのさ、
き及トモやれて、善よあふ、アメソノイテシハラニモノミナの情あるて、エイ云、エスハ、イッパシ一般と云るなり、

ト彖曰、雨洒四方、物皆栄茂、ト云ハ、一般と云るなり、
羊本のうらよふとく、君はとあき、衆人悦ぶ、ト云ハ、時ハ、主家ゆとくあり、
○火歌曰、兇卦多歡、説臣曾諫、國王、ト云ハ、主と云、ト云ハ、主と云、

ト説、よより、ト云ハ、下と云るものも、ト云ハ、厚さとして、ト云ハ、諫と云るを、ト云ハ、主と云る、
まは、ト云ハ、主と云るのさ、ト云ハ、主と云るあり、ト云ハ、少人のぞ、ト云ハ、口舌の事あり、ト云ハ、む、ト云ハ、情と云る、
な、ト云ハ、主と云るあり、

○評曰、悦豫、使人之忘其勞、ト云て、人をつくらふと、人乃
よろこぶ、ト云て、君と云る、ト云て、和悦と云る、ト云て、人をつくらふと、ト云て、人乃
こびあはせと云るなり、

潭水困

○繇曰困亨貞大人吉无咎有言不信 困之方也

よむぞけ卦坎のこゝに其の兌のようもいふたさこゝまで困
の象也大人占困といふ其時ふあど天をたのしむぞもて
失つぞも道亨て智むはかりけ時ふあて言を巧り禱
尚とありてハ人信せらる事し是非をりふ変を言
信ぞもはかり

○彖曰困剛揜也除以說困而不失其所亨 君
君子乎、ごんは剛陽の君子陰柔の小人のため下掩

困の時也。猶き九五と九二と剛中の徳也。困小変て其
正と失を天命改ふの〜三爻初小あどて七道亨と
けし持を情バ身困ぐ道亨とを情とを情とむと云也
○象曰澤无水困君子以致命遂志 云ハ沢ハ水
のありき小水なりハ困の象也君子是とんと改命遂志
とあり困窮小んと初初なり変なく只爻のまゝ子行て
志と変する変なし能令小あど君子あどこの情あれば
陰難ものかれて否なり

○初六臀困于株木入于幽谷三岁不覿 けぬ知陰
象ありてり小居ハ股の株木ハ困とくも居とあどけ
く困とすくあ変あ〜と候と小何る剛明なりあなたまは
あらバ隋とありむ小株木のどく枝葉打けまをりふと
り〜玄居小幽谷小あまで〜と候と改めおありけし持也
我が居とあむずり居り小情と〜と候あり

○象曰入于幽谷幽不明也 云ハ初ハ昏暗小困と深
と心ちと爻も道改守バ困小沈事たかむ能情と〜と候あり
○九二困于酒食朱紱方来利用亨祀征凶也 云ハ
けあ〜と爻ハ剛中の才と初困の時とありと〜と候も〜と候

動^カまると変^ルる。酒^{シユ}食^シは^ハん^ニこ^ノみ^ノもの^ノさ^ハん^ノあ^ヤを^シて
困^ムと^シ濟^ムと^シて^ハ時^ニふ^クら^シむ^ル其^ノ道^ノ城^ノ懐^ノと^シり^トして^ハを^シ
同^ノ法^ノの^ノお^シり^トて^ハ困^ムと^シ濟^ムの^ノい^ハお^シけ^テあり^キ享^ス祀^ノの^ノほ^ツり
と^シ考^スと^シく^ハ徹^ス教^ス城^ノつ^クさ^ハ威^ス通^スの^ノ登^スあ^らむ^ル括^スある^ル変^ルなき^ク括^ス
小^シ情^ニて^ハな^らなり

○象曰、困^ム于^ニ酒^ニ食^ニ中^ニ有^ル廢^也也。と云^ハハ^ハあ^らむ^ル人^ノ小^シ施^スと^シく
と^シも^ハ剛^ノ中^ノの^ノ佳^クと^シ守^テて^ハ居^ルと^シきは^ハ自^ラ抱^クと^シ亨^スと^シ城^ノ地^ノと^シ私^ニ
廢^スあ^らむ^ルむ^けに^ハ括^ス少^ク我^ガ守^ル知^スと^シふ^ル失^フ括^ス小^シ情^ニと^シ括^ス

○六三、困^ム于^ニ石^ニ據^リ于^ニ蒺^ノ藜^ノ入^リ于^ニ其^ノ宮^ニ不^レ見^ル其^ノ妻^也。 凶

け^レあ^らむ^ル處^ニは^ハ陰^ノ柔^ノと^シ陽^ノ位^ニに^ハ居^ルと^シて^ハ陰^ノ括^ス少^ク剛^ノ也^ト
用^ヒむ^ルと^シす^ルふ^らり^ト困^ムふ^らあ^らむ^ル也^ト。進^ムむ^ルと^シす^レバ^ハ二^ニ陽^ノと^シも
あ^らむ^ルと^シく^ハ石^ノ小^シ困^ムと^シく^ハ其^ノま^ま小^シ女^トと^シす^レバ^ハ二^ニ陽^ノ剛^ノ
と^シの^ノり^ト小^シあ^らむ^ルと^シく^ハ蒺^ノ藜^ノの^ノむ^けと^シく^ハ小^シ樓^ノと^シて^ハ進^ム退^スあ^らむ^ル
と^シく^ハも^ハ備^フ明^ク少^クて^ハ居^ルと^シて^ハ宮^ノを^シ免^ルと^シあ^らむ^ル
け^レに^ハ括^ス情^ニと^シ括^ス

○象曰、據^リ于^ニ蒺^ノ藜^ノ乘^リ剛^也也。入^リ于^ニ其^ノ宮^ニ不^レ見^ル其^ノ妻^{不^レ祥^也}也。
と^シも^ハ剛^ノ陽^ノの^ノ上^ニ小^シ居^テあ^らむ^ルが^ラ不^レ見^ル其^ノ妻^ハハ^ハあ^らむ^ル
不^レ見^ル其^ノ妻^ハハ^ハあ^らむ^ルと^シく^ハ也^ト。情^ニて^ハ存^スなり

にちして祭祀を修む。城を去る。小まこ
とあり。バ。福慶と。又。事ありて。有。人。

○上六、困于葛藟于臲卼曰動悔有悔征吉。はあこ。是。亦
八國の移りあり。小。より。困。より。悔。ど。と。さ。れて。す。み。ぐ。こ。さ。ぞ。然。し
ども。事。極。ま。り。バ。変。ぢ。る。事。の。好。み。ぞ。り。小。に。動。う。さ。ぞ。し。て
前。の。失。あ。り。バ。變。じ。て。困。と。も。り。變。と。ぢ。ん。ば。に。ち。を。修。む。
ろ。こ。び。ち。ぞ。ぐ。ひ。と。ま。に。あり。

○象曰困于葛藟未當也動悔有悔吉行也。と。い。ふ。は、
辰。の。變。と。も。り。る。事。と。ぢ。ぢ。る。好。み。困。小。は。ど。う。さ。る。ぞ。に。城

動。ま。り。し。て。前。の。非。あ。り。バ。悔。あ。り。た。め。て。困。城。あ。る。の。心
ち。あ。り。て。ま。に。あり。

○元龜曰河中无木之課。と。い。ふ。は、河。中。ハ。あ。の。あ。る。所。を
小。木。な。り。ハ。困。の。時。也。我。が。ち。を。變。と。守。り。時。城。修。む。情。あ。り。て。は。し。
遠。小。遊。と。城。を。か。ゆ。る。の。に。ち。あ。り。て。有。り。

○ト彖曰欲飛无翼欲濟无舟。と。い。ふ。ハ、身。自。由。あ。り。が。し
し。君。を。す。ま。ん。と。ら。あ。り。時。の。宜。か。ら。ぢ。る。と。見。合。も。ち。よ

あ。し。帝。と。ち。て。未。事。な。ん。の。情。と。ま。に。あり。
○評曰水有澤上万物不。と。い。ふ。ハ、水。ハ。舟。の。上。に。あ。り。る。物。の。

なり候のりまゝ付と候
し流るひのくし
事物困て
生ぜ候物まごも君子母もてハ
毛身小粒く、黄と身ハ
毛道事あり、少くは、そ小たつ
むけハ物候情て、く其
時み候く、黄と守りて者也。



132X
32/8
10